

一般質問発言通告書

議席番号 21 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 文化の薫る都市づくりの推進について

(1) 石見神楽の郷づくりの推進について

- ① 今回市長は施政方針の中で、「石見神楽の郷」神楽伝承館に関して触れている。本物に出会える「石見神楽の郷」の実現には石見神楽伝承館整備は不可欠と考えている。市長の考える石見神楽伝承館の基本コンセプトに関して構想を聞きたい。
- ② 石見神楽の振興のためには、神楽産業の文化財の認定は急務。以前より精力的に文化財審議会で協議を行っていくとのことだが、その後の進捗状況を踏まえ目指す指定時期を含めた課題をあらためて問う。

(2) 魅力ある地域づくりのための芸術文化の振興について

- ① 「住みたくなるまち」の条件として、安定した経済、安心の医療・福祉体制の充実等の要素もさることながら、芸術・文化の充実は不可欠である。第2次浜田市総合振興計画前期基本計画が終了した時点で、市は当市の芸術文化の現状をどう評価し、後期計画に反映させたか考え方を問う。

(3) 世界こども美術館創作活動館、石正美術館を活用した教育文化振興の可能性について

- ① 開設当時は美術品購入も含め、財政に大きな負担となると危惧されてきた。しかしその後、学芸員の努力もあり独自の企画展が全国的に大きく評価され教育文化振興に貢献していると認識している。今後のさらなる活用の可能性についての所見を問う。
- ② 1月13日に浜田市議会とブータン美術教育関係者との意見交換があり、2017年から始まった世界こども美術館によるブータン美術教育支援事業の意義を認識した。ブータン王国の小学校美術教育カリキュラム遂行等に、世界こども美術館が貢献していること知り、この取組により当美術館が地域のみならず世界に対して貢献できる施設になる可能性を感じた。この事業の今後の展開について所見を問う。
- ③ 石本正先生は全国美術大学奨励日本画展を開催。その後先生の想いを引き継ぐ形で、毎年、石本正日本大賞展が開催されており現在若手日本画家の登竜門と称されている。当市は日本画家の巨匠・橋本明治画伯も輩出しており、日本画家育成のまちとして石正美術館を活用した一層の事業展開が可能と考えるが今後の開催方針について問う。

2. 海上自衛隊艦艇物資補給基地誘致活動の今後の方向性について

(1) 海上自衛隊哨戒艇駐留基地誘致要望活動の追加について

- ① 防衛省は近年、海外派遣艦艇の増加が我が国の周辺海域での護衛艦による常続監視を困難にしているという認識を示した。それにより平成30年末に新たに制定した中期防衛力整備計画において「哨戒艦部隊」を新設するとされた。それを受けて昨年6月30日に防衛省は令和5年以降に調達される哨戒艦のイメージと概要を公開した。今後建造予定の12隻が何れかの港に配属されることが予想されるが、浜田市として現在の物資補給基地誘致に加え、哨戒艦駐留基地誘致も併せて活動することが浜田港活性化と地域経済再生にも繋がると考えるが、市長の所見を問う。

3. 組織的危機管理の徹底について

(1) 学校給食における安全確保のための危機管理について

- ① 平成30年11月28日、公用車車検切れ運行、個人情報漏洩、学校施設整備負担金の過大公布等の不適正事務が発生している状況を苦慮して、市長に対して議長名で危機管理の徹底を申し入れた。その後も危機管理体制に疑問を感じる事案が発生。今回の教育方針の中で、学校給食に関して、いくつかの課題が述べられている。特に学校給食において最も大切な事は栄養バランスと食の安全であるが、ここ数年において異物混入等残念な事例が報告されている。全国的にも、異物混入、給食による窒息事故、アレルギー食品によるアナフィラキシーショック等が大きな問題となっている。安心の学校給食を提供するための徹底した組織的な危機管理体制、適切な情報公開が必要と考えるが教育長の所見を問う。